

2017 年度第 2 四半期決算説明 ネットカンファレンス質疑応答要旨

| | |
|------|---------------------------------------|
| 日時 | 2017 年 11 月 1 日 16:30～17:30 |
| 説明者 | コーポレートコミュニケーション部 副部長 IR グループリーダー 吉田 修 |
| 説明資料 | 2017 年度第 2 四半期決算の概要 及び 2017 年度業績予想の概要 |

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. モビリティセグメントの営業利益について、17 年度上期から下期にかけての減益理由について説明してほしい。

A1. 需要は引き続き堅調に推移するとみており、数量面では拡販効果を織り込んでいますが、原料価格の上昇等による取引条件の悪化及び固定費の期ズレ等の影響を織り込み、上期対比では減益を見込んでいます。

Q2 第 2 四半期決算における PP コンパウンドの販売状況について説明してほしい。

A2. PP コンパウンドの販売についてはグローバルで堅調に推移しました。北米の自動車生産台数は落ち込んでいますが、SUV やピックアップトラック等、1 台あたりの樹脂使用量の多い大型車への当社 PP コンパウンドの採用が進んでいることから、当社材料の販売数量としては微減に留まっています。またタイ、中国、インド等で販売が好調だったことにより、トータルでは対前年同期比で増販となっています。

Q3. モビリティセグメントにおいて、PP コンパウンド以外の各製品の動向、及び中東における競合の新增設が 17 年度下期営業利益に与える影響について説明してほしい。

A3. 各製品とも需要は堅調であり、引き続き販売は堅調に推移すると見えています。一方、取引条件については、競合の新增設の影響を考慮し、やや慎重に見込んでいます。

■ヘルスケアセグメント

Q4. ヘルスケアセグメントの営業利益について、17 年度上期から下期にかけて増益となる理由について説明してほしい。

A4. ビジョンケアについてはメガネレンズモノマーの販売が堅調に推移すると見込んでいるのに加え、新製品の販売による増益を織り込んでいます。不織布は昨年の流通在庫調整局面から需要が正常化し、販売は回復しているものの、収益面ではまだ原料価格上昇の影響を受けていますが、今後回復を見込んでいます。歯科材料については季節要因及び拡販による増益を織り込んでいます。

Q.5 不織布の設備増強による 17 年度営業利益への影響について説明してほしい。

A.5 不織布の新設備の営業運転は 3 月を計画しているため、増販効果、固定費の増加ともに損益への影響は大きくありません。

■フード&パッケージングセグメント

Q.6 フード&パッケージングセグメントにおいて、原料価格の上昇が包装フィルムの 17 年度下期営業利益に与える影響について説明してほしい。

A.6 包装フィルムは需要が堅調であるのに加え、為替水準及び品質面で輸入品が増加しにくい環境が続いているため、取引条件が大きく悪化するものではないと考えています。

Q.7 農薬の新規原体の上市時期について説明してほしい。

A.7 新規殺虫剤を 2020 年度に上市する見込みです。

Q.8 イクロスの販売状況及び生産余力について説明してほしい。

A.8 イクロスは好調な半導体需要を背景に販売数量は増加しています。現在の設備余力及び将来的な拡販計画を踏まえ、この度台湾における設備新設を決定致しました。

■基盤素材セグメント

Q.9. 基盤素材セグメントの営業利益について、17年第1四半期から第2四半期にかけての減益理由について説明してほしい。

A.9. 主として第2四半期にナフサクラッカーの定修を行っている他、修繕費の増加やコストの期ズレの影響によるものです。

Q.10. 基盤素材セグメントにおいて、17年度上期から下期にかけて増益となる理由について説明してほしい。

A.10. 交易条件は原料価格上昇及びオレフィン市況軟化により悪化を見込んでいますが、ナフサクラッカーの定修を上期に実施しており、下期はその影響が無くなる他、各製品の拡販を織り込み、増益を見込んでいます。

Q.11. 今後のオレフィン市況の見通しについて説明してほしい。

A.11. 足元は堅調な需要を背景に市況は高水準で推移していますが、一部遅れはあるものの、18年度にかけてシェールベースのオレフィンが出てくると見ており、年初の想定通り徐々に市況は軟化すると見込んでいます。

Q.12. 17年度下期の営業利益見込におけるブタジエンの市況前提について説明してほしい。

A.12. 外販市場規模が小さく、トラブル等により市況が敏感に反応する構造になっていますが、収益計画は定常状態での市況水準を前提としています。

Q.13. TDI及びフェノールのアジア市況見通しにつき説明してほしい。

A.13. TDI 市況は年内は引き続き高水準で推移し、その後徐々に軟化すると想定しています。フェノールの市況については、米国のハリケーンの影響で一時改善しましたが、足元は米国フェノールメーカーも稼働を再開しており、概ね200\$/t程度で推移すると見込んでいます。

Q.14. 主要製品の稼働率を教えてください。

| | | | |
|-------|---------|------------------|------------|
| A.14. | クラッカー | 2Q：概ねフル稼働(定修を除く) | 下期：フル稼働 |
| | ポリオレフィン | 2Q：フル稼働(定修を除く) | 下期：フル稼働 |
| | フェノール | 2Q：ほぼフル稼働(定修を除く) | 下期：ほぼフル稼働 |
| | P T A | 2Q：国内80%程度 | 下期：国内80%程度 |
| | T D I | 2Q：概ねフル稼働(定修を除く) | 下期：概ねフル稼働 |

■全社

Q.15. 17年度上期の持分法投資損益が前年同期比で改善している理由につき説明してほしい。

A.15. 主にTDI市況改善に伴うウレタンJVの損益改善が寄与しています。

Q.16. 株主還元の考え方について説明してほしい。

A.16. 今回、期末配当見込は変えておりませんが、第3、第4四半期の状況を考慮しつつ、適宜見直しも検討していきます。また株価水準等を考慮しつつ、機動的な自社株買いも併せて検討して参ります。

以上